

遺跡の調査研究/古代倉庫遺構の集成的研究/古代豪族居館遺跡の研究/動物遺存体による生業活動の復原的研究/遺跡土壌の微細形態学的研究/残存脂質分析による生活環境の復原的研究/古気候の復原的研究/年輪年代法による白頭山巨大噴火年代の解明/年輪年代法による弥生・古墳時代開始時期に関する研究/広域遺構探査法の開発研究/東アジア古代の庭園遺構の比較研究/文化遺産の地域特性に関する研究/復原建物の構造安定性に関する研究/常時微動測定による古建築の構造に関する研究*/金銅製遺物の保存科学的研究/飛鳥・藤原・平城宮跡等出土品の保存処理/東アジアの古代聖像・壁画の技法的研究/有機質遺物の材質分析とその保存処理法の開発研究*/劣化写真のデジタル画像による復原/解析図化システムによる文化財計測法の開発/南アジア仏教遺跡の研究/発掘調査支援機械システムの開発研究/陶磁器文化の交流に関する科学研究/日韓古代における埋葬法の比較研究

埋蔵文化財関係情報処理の現状 奈文研ホームページは、研究所による現在までの調査研究成果の公開と、平城宮跡の現況の紹介に特に力を入れて整備を続けている。外部からのアクセス件数も1カ月1000件を越えており、また、電子メールでの質問も受け付けているので、一般の人々に対する文化財の調査研究についての情報公開に大きく貢献していると考えられる。

全国不動産文化財情報システムの現状 インターネット経由でのデータベースの公開を始めた。校正用のシステムでは本年度も遺跡情報の収集を続け、データの変更・更新を行っている。要望の多い画像情報の取り込みについては、どのようにして実現するか、システムの検討を行っている。膨大な遺跡数を前にたじろぎながらも前進しているというのが実感である。

年輪年代法による白頭山巨大噴火年代の解明 中国北東部にそびえる長白山-白頭山(2,744m)の噴火による火砕流で埋没したマンシュウカラマツ樹木の炭化材のもつ年輪から、その噴火年代を明らかにしようとする研究である。10世紀に噴火したとされている白頭山の噴火年代が確定すれば、渤海国の滅亡との関係の有無や、その火山灰がわが国の東北、北海道へ飛来してきて遺跡に堆積していることから、それらの遺跡年代確定にも大いに役立つことになる。目下、中国科学院瀋陽応用生態研究所と共同で進めている。

金銅製遺物の保存科学的研究 金銅製遺物のうち鍍金製品の鍍金層は数十ミクロン以下の薄層により形成されている。これらの保存にあたり、高吸水性ポリマーを利用したさびの除去が可能となり、また、多くの鍍金遺物の非破壊測定が可能となった。しかし、従来からの蛍光X線分析法ではX線的に無限層厚試料が定量条件となるため、出土遺物に適用することが困難である。本研究は平

埋蔵文化財センターの研究活動

埋蔵文化財センターの6研究室と情報資料室および各人がそれぞれの課題を定めて進めている研究があり、多くは前年から継続しているものである。1997年度には次のものがあり、そのうちのいくつかについては別頁で報告している(*印)。ここでは他のもののいくつかを紹介する。

全国不動産文化財情報システムの普及流通に関する調査研究/文化財情報ネットワークにおける通信法の研究/遺跡地図情報システムの開発研究/縄文編年の学史的的研究/東アジア古代都城の比較研究*/古代地方末端官衙

行ビーム法X線回折測定による構造解析から同定をおこない、金と水銀の割合の推定をおこなう事が可能となることから鍍金技法の解明に大いに役立つ。(工業普通)